ボランティアの心

わが街のニーズに寄り添う

あの震災に、もし遭っていなかったら、そしてカレッジに在学していなかったら、今までボランティアとは無縁で過ごしていたかもしれない。

2期生で入学して3か月、震災直後から続いた休校の間、東須磨小学校の避難所へ手伝いに通ったのが初めての体験だった。その縁で7月の〝この指とまれDAY〟で「子どもと遊ぼう」グループを立上げて小学校や保育園を訪問した。のちにグループは「こども文化」と名を替え今日まで引き継がれている。

青陽須磨支援学校トライやるウィークのサポート（北須磨文化センターで）

再開後のカレッジではボランティアセンターの運営に参加した。授業にもボランティア講座が加わり、実践と理論の両面からボランティアを学んだ。まさに〝ボランティア元年〟だった。

１年を経て、事情で休学、翌年3期生として復帰すると、再びボランティアセンターに入った。この年の7月、1期生によって〈わ〉が生まれた。

卒業後、近くのカレッジ同窓生で「ぐるーぷ峠」を作り高齢者施設で入浴後の整髪など奉仕活動を始めた。この活動は今も続けておりもう18年目になる。細々でも地域に〝ニーズ〟がある限りは続けることが大事と信じている。

〈わ〉は年を追って活動分野を広げ、それに伴い会員も増加した。いろいろなボランティア活動があることはいい。ただ、見るところ〝シーズ〟先行、つまり相手はともかく自分がやりたいことをやるという傾向があるように思う。その反面〝ニーズ〟に根ざした地道な地域貢献活動への関心が薄れているのではないかと感じている。私は、いま須磨区会長の立場にある。わが区会のメンバーが分野を問わず活躍することはもちろん喜ばしく応援もしている。ただしメンバーの皆さんには、片足はいつも地域に着けていてもらいたいと願っている。

（細野恵久　福3　須磨区会長）

創エネ神戸がソーラー発電所の点灯式

西区のあさひ保育園に設置

グループわ の創エネ神戸がコーディネートしたソーラー発電所の点灯式が2月14日午前10時から西区のあさひ保育園で開かれました。

神戸市初の市民共同発電に約550万円を無利子融資した兵庫県農政環境部の代表、保育園保護者会会長、〈わ〉の小畑理事長ら来賓9人、子どもの保護者、出資した〈わ〉の会員やカレッジの学生、園児150人を含む約200人が出席しました。

舟橋博園長は「おひさまのちからで発電が始まります。皆様のご協力に感謝で一杯です」と挨拶。続いて舟橋園長、県代表、園児代表2人、創エネ神戸代表の山田通裕さんが発電のスイッチを押しました。

この「あさひ・カレッジ発電所」はあさひ保育園が事業者となり創エネ神戸が共同運営者となりました。

昨年5月、設置の検討を開始。7月には施工業者にワット神戸を選定、兵庫県の地球温暖化を防ぐ再生可能エネルギー事業の貸付に応募。7月から9月にかけて、〈わ〉会員やカレッジの学生に建設協力を呼びかけ、1口1万円の建設協力金に49人が応募。県の貸付は10月に認められました。

発電出力は26KW、ソーラーパネルは260Wが100枚で、保育園の普段使う電力を十分に賄うことができ、少し余る電力は関電に売却します。建設費用は約700万円で、県の貸付550万円のほか保育園が100万円拠出、建設協力金49万円などを活用しました。

創エネ神戸は平成26年に設立。会員は9人。再生可能エネルギーの普及、啓発活動を行っています。月に3回程度活動し、市民共同発電所の建設のほか、研究会や見学会に参加、環境学習として児童館や幼稚園等でソーラーカーを走らせたり、風車を回して子どもらに太陽の力を実感してもらっています。

（文・写真　　広報　永野知己）